

日体大だまし

日本体育大学
東京都同窓会会報
第14号
平成26年10月1日発行
発行者 東京都同窓会長
岡田 信之

平成二六年度東京都同窓会

定期総会報告

東京都同窓会会長

岡田 信之

年度新しく就任された全国同窓会会長の 瀧澤康二様より今後の同窓会についての展望と六年後のオリンピック・パラリンピックに向けていよいよ日本体育大学が結束する時を迎えたとの力強いご講演をいただきました。

同窓会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は皆様に多方面にわたりご活躍いただいております。会長としても心強く存じております。お蔭様で東京都同窓会も「日体大だまし」でご報告しているとおり、種々の課題を解決しながら充実した活動を推進しております。これもひとえに皆様からの暖かいご理解ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて今年も日本体育大学東京都同窓会の定期総会を七月十九日(土)世田谷キャンパスにて開催いたしました。参加会員七十余名、来賓に前理事長 塔尾武夫氏、全国同窓会会長 滝沢康二氏、関東女子の集いの代表 星野百合子氏の出席で予定通り開催されました。来賓挨拶後、式次第に則り日頃から同窓会員として、地道な活動を通じてこられた八名の先生方の表彰を行ないました。

引き続き議案一号・二号の議事に入り、続いて平成二五年度事業報告・決算報告、平成二五年度監査報告に続き一括審議の後承認されました。次いで平成二六年度事業計画、予算について一括審議の後承認されました。

その後十六時より一時間にわたり今

「同窓会の絆」の発展を願って

第二部の懇親会は大学の食堂に場所を移し、十七時十五分より予定通りの開始となりました。

始めに阿部茂明 副学長の挨拶を戴き、引き続き東京都保護者会、会長竹之内勝也氏の挨拶(都内学生一三四三名の代表)他五名の役員のご出席がありました。さらに日体荏原高等学校出身の教育実習生も加わり、若い新鮮な感覚と熟達された諸先輩と和気藹々と過ごしている姿に同窓会の将来の夢を感じました。

本学も創立一二三年を迎え母校の歴史、それは同窓会の歴史でもあります。母校の発展を支えるのは、ひとえに同窓生の活躍にあります。同窓の力は、持続的なものであってこそ本来の同窓の姿だと理解しております。

また、支部会の活性化が重要であり、年々支部会の活動回数も増えて来ており、喜ばしい限りを受け止め、その都度、東京都同窓会から代表役員を送り、会員相互の親睦を図りながら、母校の近況報告等を見せて戴いております。

今後日本体育大学東京都同窓会が確固

たる歩みが続けていく為には、これからの時代に相応した機動力と価値を生み出す団体として新たに出発すべきだと考えています。

東京都同窓会は若年層の多忙、役員の高齢化、会員構成の変化等課題は山積しています。日本体育大学同窓会は、体育に関する学識と経験と指導力の豊富な団体であり、六年後の東京オリンピック・パラリンピックに向け、五輪の精神を社会全体広げ育む中心的存在となってくれることを願っております。

最後に「日体大だまし」も(第十四号)より、同窓会に広報委員会を立ち上げ、発行の運びとなりましたことを申し添えておきます。

東京都教員採用候補者選考

対策講座を終えて

東京都同窓会教育支援委員会
副委員長 小橋川和子

今年も昨年に引き続き、「同窓生のための同窓生による」教員採用候補者選考対策講座を実施した。

六月の開催に向け、卒業を控えた在校生に三月一日より学内での周知、さらに既卒者には大学の同窓会のホームページを使いPRし五月十五日までの申し込み受付を図った。その結果在校生(四年生)と既卒者合わせて二九名の申し込みがあった。

一方、今年度より昨年にも増し、試験に向けた取り組みと学習の仕方等について冊子を作り詳細な準備を図った。さらに、中学校・高等学校の元管理職が委員会の中心となり、仕事を終えた午後六時過ぎより事前の打ち合わせを数回行い体制を整え臨んだ。

講座は六月の土曜日二回、日曜日二回計

四回の開催、開催時間は、午前十時より午後五時まで、既卒者からは、資料代として毎回千円を徴収させていただいた。

講座内容は、前年度の教職教養・専門教養等の問題を使い、学習の進め方を始め、問題演習、論文問題演習、個別相談の指導等、講義形式とマンツーマン対応で丁寧に行った。

猛暑の中、毎回十名から十八名の受講者であったが、四人から七人の講師で対応した。その結果、東京都教員採用試験受験者八名の内一次合格者四名であった。受講者からアンケートを取り今後の対応に生かしていくこととした。また、今回は残念な結果であった受講者に対し再度挑戦するよう激励の手紙を送った。最終結果は十月中旬の発表であり結果が楽しみである。

今後の課題としては、大学側と連携し一次試験合格に向け大学で実施している諸々の講座の参加状況やその分析、改善策等を伺い、教職・専門教養共に地道な学習が必要であることを痛感した。さらに、東京都同窓会が対策講座を開催していることへのPRを早い時点でを行い、より多くの参加者を募っていくための方策が必要と考えた。

次年度に向け、将来は体育界のリーダーとなるさらに質の高い教師の輩出を目指し東京都同窓会挙げて実施していくことが課題である。

回想 名簿作り 事始め

多摩支部長 小嶋 昭和

八チ公口を出て交番前を右折した所が宮益坂下の交差点である。青山方面に行つて2つ目の信号が渋谷郵便局前。この近くに御嶽神社がある。昭和三十年ころ、この拝殿で東京都同窓会の幹事会が行なわれた。集まったのは池上金治、笹原六郎、濱田晴一、西岡武夫、その他の先輩方であった。一番の若僧は昭和二八年卒の私。議題は会員の掘り起こ

しと名簿の作成であった。天井が高い板の間に裸電球が一つ。火の気はない。座布団の上に胡坐をかいて居たが寒くて顔が強張ってくる。ここを会場に選んだ理由は分からないが、おそらく深沢に行つても暖房は無い、桜新町までは時間がかかる。帰りの事を考えると渋谷駅の近くに集まった方が正解であったのだろう。神職に頼んだのは誰なのか。借用料は払ったのだろうか。先輩の多くが鬼籍に入られた今となっては知る由もない。当時は会員と会うにしても自家用車を持っていた先輩は居なかったと思う。タクシー代は高くて庶民の乗り物ではなかった。バスは回数が少ない。自転車という手もあるが遠くまでは無理。地下鉄は銀座線のみ。その料金は十円均一であった。家庭に電話が入ったのは昭和三十年代の後半と思う。今のよう自家用車あり。携帯電話ありスマホあり、瞬時に相手の声が聴ける世の中とは訳が違う。こんな時代に会員の消息を確かめ名簿を作る。その過程には想像もできないほどの、ご苦労が有ったに違いない。

手許に「昭和二九年十二月現在」と印刷された全国同窓会名簿がある。これによると東京都の会員は三八五人である。最も多い地区は多摩で四六人。次が千代田地区の三九人。最も少ない地区は江東で四人である。

巻末に編集後記がある。当時のご苦労が滲み出ている文章なので原文のママ転記することにした。

「昭和二五年、戦後、第一回の名簿発行により吾々同窓の消息を知ることができ誠に喜びにたえませんでした。その後、毎年、修正を加え完全に近いものにしたすべく努力して参りましたが何といたしましては支部各位の御協力を得なければ到底なしとげられるものではありません。今回の発行にいたしましたが予約数が余りにも少なく到底発行不可能な状態でしたが一部有志の切なる希望もありまして今回は謄写刷りで発行することになりました」

教員生活を振り返って

日体生に望むこと

玉川大学 客員教授

山田 稔



大学を卒業し、中学校に赴任した。二年目、初めて体育的行事委員会委員長となり、学校

の中心となり運動会の企画・運営を行った。

三年生の学級担任をしていた私は、「生徒達が最も楽しみにしている運動会へ向けての練習が始まる」と、大学で学んだ集団行動や技能指導、行事運営や生徒指導を駆使しようと気合が入っていた。朝礼台の上で全体に向けての号令、全校体操の指導と進めていくうちに、数人の生徒たちがきちんと行っていないことに気付いた。大きな声で頑張るよう励ますが、なかなか意欲的に取り組む姿勢が見られなかった。練習終了後、その生徒達に話を聞くと、「体を動かすのは、好きじゃない。だから運動会も嫌い」という。「すべての子ども達は、体を動かすことが好き」と思い込んでいた私の大きな思い違いであった。また保健の授業では、身近な話題を取り上げて、意見交換を行うよう取り組んだが、思うように生徒達の興味・関心を引き出すことが出来ず、活発な授業とならないことが多く、「生徒達が授業に乗ってこないのはなぜだろう」と悩んだ。

そんな時、先輩の体育の先生や他教科の先生が声を掛けてくれた。夜遅くまで意見交換をした。また学校が終わると「飲みニケーション」に連れて行ってくれた。管理職の先生も、サポートしてくれた。それ以降、地区の保健体育科研究部や東京都の保健体育科研究会に所属して、教材研究や教具の開発、研究授業を行い、指導を仰ぐなど、自分なりに取り組みながら、「いい授業を行うことが、

運動好きな生徒を育てる」と常に思いながら、授業の改善に取り組んできた。

教員生活の後半は、管理職となり学校運営、人事管理、保健体育科研究会の指導的立場となった。文部科学省の全国体力・運動能力等調査検討委員会に長く関わり、全国的な体力の低下にどう対応するかに取り組んでいる。

今、大学で体育の教員を目指す学生に授業や指導を行っている。学生には、保健体育の授業を通して、「できる、分かる」↓「楽しい」↓「続ける」↓「体力が高まる」という、好循環を生み出せるような授業をつくってほしいと思っている。

現在、スポーツ庁の設置についての議論が行われている。日本のスポーツ界は長年、日本オリンピック委員会(JOC)が「強化」、日本体育協会(日体協)が「普及」と役割が分担されてきた。またスポーツ庁の所管は五輪が文科省、パラリンピックは厚生労働省と分かれており、支援強化の観点から一本化を求める声が強かった。政府はスポーツ庁を新たな「司令塔」に据え、国家戦略としてのスポーツ振興を図る構えだ。

二〇二〇年東京オリンピックを目指して、今後ますます運動・スポーツに対する国民の関心が高まる。この時代に、日体大で学んだ保健体育の専門的な知識や技能を有効活用して、学校現場や研究機関、社会体育や地域で生かし、その中心となり活躍してほしいと願っている。日体大の学生には大きな期待を寄せている。

二五年度対策講座受講生

民間から教員になって

東京都立新宿高等学校
教諭 岡崎 寛

私が教員を志したのは、平成二三年の秋のことでした。平成二五年度に期限付採用、平成二六年度に正規採用され、この春から都立新宿高等学校の保健体育科教諭として赴任しています。夏休み期間中も、一年生参加の

臨海学校、顧問をする水泳部の合宿の引率、と慌ただしいながらも充実した日々を過ごしました。まさに「駆け抜けた」赴任以来の数か月を振り返りつつ、今回、民間から教員へと転身した自身の経験を、拙いながら寄稿させていただきます。

就職に就く以前は、飲食店経営をしていました。数年かかって軌道に乗り出した店舗の経営は、大変ながらもやりがいがありました。しかしながら、朝早くから深夜まで続く勤務体制のために体調を崩した私は、それをきっかけに自分自身の今後を考えることとなりました。そんな折、大学時代に取得していた教員免許の更新講習を母校で受講し、東京都の社会人枠の教員採用試験を受験することを決意しました。

経験の乏しい自分には、少しでも教育に携わること、知識と経験を積むことが重要と考え、教員採用候補者選考合格までの受験期間中は、小学校での補助指導教員、高校では定時制の非常勤講師などの職を兼務し、また、「東京都同窓会主催の論文対策講座」に参加し、多くの先輩の経験を聞くことで準備してきました。現在、教員をしながら感じることは、これらの経験が自分を大きく助けているということ。私が最も深く気付かされたことは、いかに真剣に生徒と向き合い、それぞれの持つ個性を伸ばすことを助ける役割を果たすかが、生徒の人としての成長に影響を与えるということでした。

ある小学校の補助指導員として関わったクラスでは、学級崩壊寸前の状況で、数人の生徒が常習的に問題を起こしていました。高校の定時制では、多くの生徒が複雑な家庭環境の中、日中は働ながら授業を受けに来ています。理由はそれぞれでしたが、出会った多くの生徒は、真剣に話を聞き、理解することに努めてみると、自分を表現する場を与えられたことにより、心に余裕が生まれたようでした。そして、他者との関わり合いに関心を持ち、心配りが出来るように変化していきました。

それまでの経営者の立場では、アルバイトに来る学生などを採用する際に、いかにこちらの求める戦力に合う人材を雇うか、育てるかにばかり焦点を当ててきました。教員となった今は、そのようなニーズに対応できる柔軟性を備えた人間を育てる側に立ったと言えると思います。子供の持つ可能性、特性をうまく引き出し、個々がそれぞれに自信を持つように指導することが、その後の社会に出てからも、役割をきちんとこなすことのできる人材を育むことになるのではないかと考えています。現在勤務する学校では、今までよりもさらに密接に生徒と接するようになり、多忙ながらもやりがいを感じ、日々の授業や、行事、部活動を通して、生徒が成長している様子に喜びを感じながら、まだまだ新米教師として、自身も多くの学ぶべく邁進していきたいと思っています。

編集後記

平成二六年七月二日、第一回広報委員会を本学世田谷

キャンパス内の教室で開催しました。総会時にご委嘱した各委員(四名の先生方)全員にご集合いただくことができました。

協議内容は、広報誌を同窓会の事業として位置づけ、組織的に編集や発行の業務を進めていくこと。委員の役割分担、編集方針、第十四号の編集・発行計画、平成二七年度の発行計画などについて意見交換を行い、協議内容を理事会にご報告し、ご承認をいただく。委員は左記のとおりです。

委員長・小橋川(同窓会副会長)、委員・大西(都立雪谷高校長)、角杉(帝京大学講師)、五石(株PUC勤務)

学生と同窓生のための同窓生による

平成28年度東京都教員採用候補者選考試験対策講座開催予定

- 講師 日本体育大学卒業で東京都公立学校管理職(校長・副校長)の経験者
- 講座 全4回(計画中)
- 会場 日本体育大学 東京・世田谷キャンパス内の教室
- 開催日時 平成27年6月中に実施を計画しています。
- 費用 1,000円(各回ごと)
- 主催 日本体育大学東京都同窓会教育支援委員会
- 共催 日本体育大学東京都保護者会(予定)
- 問合せ先 日本体育大学学生支援センター、日本体育大学東京都同窓会

講座内容(平成26年度実施の例)

- 第1回 受講と選考受験の基本的な準備、教養問題演習、専門教養問題演習、教養問題と論文問題の学習方法の指導
- 第2回 演習教養問題解説、教養問題学習の進め方、論文問題演習、論文添削
- 第3回 論文問題の演習、論文問題演習の振り返り、評価を活用した学習法
- 第4回 第三回と第四回は、同じ内容となります。

※ 『個別の指導と相談』論文演習の添削指導を含み個人的なアドバイスや相談にのることができます。講義の時間は、各回ともに10:00から16:00(途中昼食休憩があります。)東京都以外の自治体を受験希望の方、他自治体の同窓生で東京都の採用試験を受験される方も参加可能です。(内容は、過去の東京都教員採用試験を参考に実施いたします。)